



夏休み後の適切な対応を！

自殺予防 対策の充実

2学期始業式前後の時期は、様々な要因から精神的に不安定な児童生徒や不登校傾向にある児童生徒に対して注意と配慮が必要な時期です。

特に18歳以下の自殺は、夏休み明けに急増する傾向があります。

★児童生徒の自殺予防対策について、**適切な対応を確実に行いましょう。**

夏休み中の対応

□状況の把握と不安の解消

配慮を要する児童生徒には、夏休みが終わる前に、面談、家庭訪問、保護者との情報交換、電話連絡等の方法により、児童生徒の状況把握に努め、不安の解消や励ましを行う。

気になる児童生徒とは・・・

次のような気になる変化の見られる児童生徒に関して、教職員で共通理解を図りましょう。

- ・ 服装、頭髪の乱れや友人関係の変化が見られる。
- ・ 部活動等への出席状況が悪くなった。
- ・ 家庭生活で大きな変化があった。
- ・ 学習態度や課題等の提出状況が悪くなった。
- ・ 表情が暗くなり、あまり話をしなくなった。
- ・ 遅刻や欠席、保健室への来室が多くなった。

夏休み明けの対応

□早期発見

アンケート調査や教育相談等を実施する。

□相談窓口の周知

「24時間子供SOSダイヤル」や「教育相談室について」「総合相談センターチラシ」等を児童生徒や保護者へ配付する。

□大人への相談の呼びかけ

全ての児童生徒に対し、不安や心配事がある場合は、1人で抱え込まず、保護者、教職員、SC等の大人へ相談するよう呼びかける。

□組織的な対応

気になる児童生徒については、特定の教職員で抱え込まない。



早期発見・相談・組織的対応がキーワード！